

すべての学習塾はオフィシャル・スポーツをもちスポーツ振興を
—開倫塾のオフィシャルスポーツはドッジボール—

開倫塾
塾長 林明夫

Q：開倫塾では、ドッジボールをオフィシャル(公式)スポーツとして支援しているそうですね。なぜですか。

A：(1) 私自身、小学生、中学生の時に、学校でドッジボールをして毎日のように遊び、ドッジボールが大好きだったからです。
(2) 塾生も、手軽にできるスポーツ、ドッジボールが大好きだからです。
(3) 地元からの要請を頂き、地域のドッジボール協会の皆様とともに、また、地域のドッジボール協会の皆様のご指導の下に、1999年に第1回ドッジボール大会の開催を支援。今年で、第19回を迎えることになりました。

Q：学習塾がドッジボール大会の支援ですか。面白そうですね。

A：(1) 初めの何回かは、開倫塾の各校舎でチームをつくり、校舎対抗のようなドッジボール大会でしたが、徐々に知名度が上がってくると、多くのドッジボールのクラブチームが参加するようになりました。
(2) 現在では、年に数回、地元で開催されるドッジボール大会の支援をさせて頂いております。
(3) 近隣の都や県ばかりでなく、海外からの代表やチームも参加するようになりました。

Q：なぜ開倫塾では、オフィシャルスポーツとしてドッジボールを支援しているのですか。

A：(1) 民間教育機関の学習塾として、子供たちが大好きで誰でも気軽に参加できるスポーツ、ドッジボールの普及支援を通して、青少年の健全育成に貢献したいからです。
(2) 企業の社会貢献活動として、子供たちにとって身近なスポーツ、ドッジボールの支援は意味あることと考えるからです。
(3) 私の尊敬する企業であるコニカミノルタは、陸上競技をオフィシャルスポーツとし、毎年、元旦の「ニュー・イヤー駅伝」を支援なさっています。陸上競技をオフィシャルスポーツとして支援するコニカミノルタのように、開倫塾はドッジボールを本格的に支援する企業を目指したく存じます。
(4) 東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年には、オリンピック・パラリンピック以外のスポーツの世界大会や国際大会の開催が、スポーツ振興のために望まれると考えます。
(5) 2020年の東京オリンピック・パラリンピックの年に、何らかの形で、ドッジボールの世界大会か国際大会が開催できるよう、皆様とともに準備を重ねたく存じます。

Q：東京オリンピック・パラリンピックの年、2020年にドッジボールの世界大会か国際大会ですか。面白そうですね。

A：(1) はい。オリンピック・パラリンピックは参加することに価値、意味があると考えます。
(2) パラリンピックに対する理解や支援の仕組みづくりは、今のところ、オリンピックと比べはるかに少ないように感じられてなりません。
(3) オリンピック・パラリンピック以外のスポーツへの支援は、もっと少ないように思えます。そうであるならば、東京オリンピック・パラリンピックの2020年には、スポーツ振興のために、ドッジボールの世界大会か国際大会をと願わずにはられません。

Q：学習塾や予備校、私立学校の経営幹部の先生方に訴えたいことは何ですか。

A：(1) 2020年の東京オリンピック・パラリンピックの年には、オリンピック・パラリンピックの振興、とりわけ、今のところオリンピックと比べ関心の低いパラリンピックの振興が望まれます。是非、パラリンピックにご注目頂きたいと希望します。
(2) これに加えて、東京オリンピック・パラリンピックの種目以外のスポーツの振興、世界大会か国際大会の開催が、2020年には望まれます。
(3) 東京オリンピック・パラリンピックの振興とともに、是非、先生方の教育機関でも、子供たちが大好きなスポーツで、オリンピック・パラリンピックの種目以外のスポーツをオフィシャル(公式)スポーツとなさり、そのスポーツのご支援をお願いしたく存じます。また、できうれば、そのスポーツの世界大会か国際大会の開催をご支援頂きたく、お願いいたします。

Q：具体的には、学習塾や予備校、私立学校はどのようにスポーツを支援したらよいと考えますか。

A：(1) スポーツには、都道府県や市町村に種目ごとに協会がありますので、地元の各協会が主催する様々な大会を無理のない範囲でご支援するのが一番と考えます。
(2) 例えば、トロフィーやメダル、賞状、賞品を寄附する、プログラムに広告を出す、大会当日はボランティアとして参加するなど、いろいろな形での支援が考えられます。
(3) 塾生チームをつくって参加したり、先生方が公式審判員としての研修・トレーニングを受けて、ボランティア審判員として参加することも素晴らしいと思います。
(4) 所有している体育館や運動場などを練習や大会に開放なすることも、とても喜ばれます。
(5) 可能であれば、地元の各スポーツ連盟と共催して、大会を毎年、定期的で開催なされると、その地域でのスポーツ振興と直結します。

Q：林さんにとってスポーツの素晴らしさとは何ですか。

A：(1) 慶応義塾大学の塾長で、テニス部の部長であった小泉信三先生は、「スポーツの3つの宝」として、「練習は不可能を可能にする」「フェアプレイ」「よき友」との教えを示されました。
(2) 私は、中学時代に足利市立山辺中学校柔道部に所属し、柔道に明け暮れておりました。柔道5段の監督椎名弘先生からは、講道館の「自他共栄」と、先生独自の「練習で泣いて、試合で笑え」の精神をお教えました。
(3) スポーツで得られるものは、「お世話になった方々への感謝の心」と「すがすがしく、美しく生きる」という生き方ではないかと思います。「美しい立居振舞い」「敬語表現を含む言葉遣い」など、「躰」を身に着けることができるのもスポーツです。遠征を通して、多

くの場所を訪れることができ、見聞を広めることができる、また、練習や試合を通して、数多くの同じスポーツをする人と出会うことができるのもスポーツの醍醐味です。どんなに練習をしても「上には上がいる」「謙虚さ」ということを思い知るのも、スポーツの素晴らしさです。

Q：最後に一言どうぞ。

A：今月は新学年ですので、お読みになれば参考になる本を10冊ご紹介いたします。

- (1) 1冊目は、尊敬する哲学者、松永澄夫先生監修、渡辺誠・木田直人編集「哲学すること、松永澄夫への異議と答弁」中央公論新社 2017年11月25日刊。松永先生の薫陶を受けた13名の哲学者が、渾身の力を振り絞って師に立ち向かう。これぞ「哲学する」の書です。
- (2) 2冊目は、ロバート・K・グリーンリーフ著「サーバントであれ、奉仕して導く、リーダーの生き方」英治出版 2016年2月25日刊。同氏の名著「サーバントリーダーシップ」英治出版 2008年12月29日刊と併読することで、リーダーシップの本質を知ることができます。
- (3) 3冊目は、文字・活字文化推進機構理事長、肥田美代子先生著「学校図書館の出番です」ポプラ社 2017年12月刊。言語力はすべての教科の基本である、読解力授業は日本の教育を変える、読書教育で子供を育てるなど、必読です。
- (4) 4冊目は、ヴォルフガング・シュトレーク著「時間かせぎの資本主義、いつまで危機を先送りできるか」みすず書房 2016年2月16日刊。資本主義は危機の先送りの過程で、民主主義を解体しつつある。ヨーロッパとアメリカで大きな反響を呼び起こした現代資本主義論。
- (5) 5冊目は、米山伸郎著「知立国家 イスラエル」文春新書、文芸春秋 2017年10月20日刊。
- (6) 6冊目は、佐藤尚之著「ファンベース、支持され、愛され、長く売れ続けるために」ちくま新書、筑摩書房 2018年2月10日刊。
- (7) 7冊目は、方谷さんに学ぶ会著「運命をひらく山田方谷の言葉 50」活学新書、致知出版 2017年6月25日刊。
- (8) 最後は、企業としての学習塾経営を本格的にお考えの方のために、足達英一郎他著「投資家と企業のための ESG 読本」日経 PB 社 2016年11月16日刊と、市村清著「統合報告書 導入ハンドブック、新しい企業報告の考え方、作り方」第一法規 2013年10月30日刊、ロバート・G・エクセル著「統合報告の実際、未来を拓くコーポレートコミュニケーション」日本経済新聞社 2015年7月23日刊の3冊をお勧めいたします。是非ご一読を。

2018年3月4日(日)記